

第7章 謡・唄・歌

高島唱歌 (高島郡役所撰)

行進曲風に

わ れ ら の す 一 め る た か し ま は
む 一 か し か し こ き す め ら ぎ と
な お う お 一 お み せ い じ ん の
う 一 ま れ た ま い し よ き ち な り

1 われらの住める高島は
名に負う近江聖人の
東に琵琶の湖うみ 清く
山城 丹波 越前や
湖辺に沿うて南北に
面積 四〇余方里
2 南は大溝 この町は
世に知られたる探險家
誰も一度は来て見よや
岩間を落つる八淵の滝
白砂清く 流れ来て
橋のほとりの分れより
仰げば高き 藤の花
残れる書院 慕いつつ
道を尋ねて 青柳の
泰山寺野は 西南
三尾の里とはその昔

1 昔かしこき すめらぎと
生まれ給いしよき地なり
西に重なる 山青く
若狭の国に 隣りせり
田園広く 開けつつ
水陸共に 幸多し
2 分部氏世々の 城下の地
近藤氏の 墳墓あり
高島山の 奥深く
たぐい稀なる奇観なり
水尾つらぬく鴨川の
沿うて下れば 藤樹道
昔ばかりか 今もなお
詣づる人の 絶え間なし
北に出づれば安曇の里
硯切り出す 阿弥陀山
天津日嗣をしらしたる

8 高島唱歌

第4編 風俗・慣習

| | | | | | | | | | |
|-------------|----------|-------------|------|-------------|--------|-------------|-------|-------------|-------------|
| 19 | 18 | 17 | 16 | 15 | 14 | 13 | 12 | 11 | 10 |
| 若狭路に沿う | 衆議公論 | 夜昼通う | 郡の中央 | 耳をつんざく砲声と | 小浜に通する | 安曇川筋の | 近江に古き | 父の王なる | 二十六代のすめらぎの |
| 三谷村 | 集めつつ | 汽船便 | 今津港 | 高島の | 若狭道 | 広瀬村 | 朽木谷 | 彦主人の | 父の王なる |
| ここも名高き | 愈々 | 大津 | 大津長浜 | 笛音常に | 大津に通する | 十八の川 | 朽木氏の | 伝え残れる | 二十六代のすめらぎの |
| 林産地 | 進歩をはかるなり | 長浜 | 塩津まで | 高島の | 若狭道 | 川上上の | 古き | 彦主人の | 父の王なる |
| ここも名高き | 公会堂は | 汽船便 | 郡の中央 | 高島の | 高島の | 安曇川筋の | 古き | 彦主人の | 二十六代のすめらぎの |
| 林産地 | 慶成館 | 大津 | 今津港 | 高島の | 高島の | 近江に古き | 古き | 父の王なる | 父の王なる |
| 北に走りて | 海に入る | 北に走りて | 海に入る | 北に走りて | 海に入る | 北に走りて | 海に入る | 北に走りて | 北に走りて |
| 小鮎すなどる | 石田川 | 小鮎すなどる | 石田川 | 小鮎すなどる | 石田川 | 小鮎すなどる | 石田川 | 小鮎すなどる | 小鮎すなどる |
| 河内は西に遠からじ | | 河内は西に遠からじ | | 河内は西に遠からじ | | 河内は西に遠からじ | | 河内は西に遠からじ | 河内は西に遠からじ |
| くぬぎの造林 | いと古く | くぬぎの造林 | いと古く | くぬぎの造林 | いと古く | くぬぎの造林 | いと古く | くぬぎの造林 | くぬぎの造林 |
| 養蚕業も盛んなり | | 養蚕業も盛んなり | | 養蚕業も盛んなり | | 養蚕業も盛んなり | | 養蚕業も盛んなり | 養蚕業も盛んなり |
| 善積氏の墓はあり | | 善積氏の墓はあり | | 善積氏の墓はあり | | 善積氏の墓はあり | | 善積氏の墓はあり | 善積氏の墓はあり |
| 東に突き出す | 大崎は | 東に突き出す | 大崎は | 東に突き出す | 大崎は | 東に突き出す | 大崎は | 東に突き出す | 東に突き出す |
| 湖辺に稀なる | 絶景よ | 湖辺に稀なる | 絶景よ | 湖辺に稀なる | 絶景よ | 湖辺に稀なる | 絶景よ | 湖辺に稀なる | 湖辺に稀なる |
| 沖の白帆の絶え間なく | | 沖の白帆の絶え間なく | | 沖の白帆の絶え間なく | | 沖の白帆の絶え間なく | | 沖の白帆の絶え間なく | 沖の白帆の絶え間なく |
| こぎゆく舟も | 面白や | こぎゆく舟も | 面白や | こぎゆく舟も | 面白や | こぎゆく舟も | 面白や | こぎゆく舟も | こぎゆく舟も |
| 進めば | 愛発 | 進めば | 愛発 | 進めば | 愛発 | 進めば | 愛発 | 進めば | 進めば |
| 敦賀道 | | 敦賀道 | | 敦賀道 | | 敦賀道 | | 敦賀道 | 敦賀道 |
| 昔の様の跡もなし | | 昔の様の跡もなし | | 昔の様の跡もなし | | 昔の様の跡もなし | | 昔の様の跡もなし | 昔の様の跡もなし |
| われらの祖先は勤勉の | | われらの祖先は勤勉の | | われらの祖先は勤勉の | | われらの祖先は勤勉の | | われらの祖先は勤勉の | われらの祖先は勤勉の |
| 道の教えも | 厚かりき | 道の教えも | 厚かりき | 道の教えも | 厚かりき | 道の教えも | 厚かりき | 道の教えも | 道の教えも |
| いざや磨けや | その徳を | いざや磨けや | その徳を | いざや磨けや | その徳を | いざや磨けや | その徳を | いざや磨けや | いざや磨けや |
| すすみて富ませわが郡を | 諸共に | すすみて富ませわが郡を | 諸共に | すすみて富ませわが郡を | 諸共に | すすみて富ませわが郡を | 諸共に | すすみて富ませわが郡を | すすみて富ませわが郡を |
| 諸共に | | 諸共に | | 諸共に | | 諸共に | | 諸共に | 諸共に |